

# 「生物多様性を伝えるツール開発 ～歩いて発見！！身近な生きものガイド～」

野生動物保護専攻2年

小吹寧々 小松英資 高杉優里花 鷹羽陸  
高橋瑞季 豊福雅哉 服部隼 村上陸人

## <目的>

日本有数の野鳥の生息地である葛西臨海公園は、自然を保全・回復・育成することをテーマに整備された。開園当初は人工的に林や渚を造成しており、従来の自然の環境と比較すると、生物の多様性は決して豊かではなかったが、この30年、様々な生きものたちが棲みつき、新しい生態系が築き上げられてきた。そこで、日頃利用して頂く地域の方々に、還元できる情報を提供し、さらに理解を深めて頂く目的で、公園を管理する東京都公園協会、鳥獣保護区である鳥類園を運営する生態教育センターとの共同制作で、インタープリテーションに使う「ツールの開発」に取り組んだ。

## <方法>

実習地である長野県の千年の森自然学校で、生態教育センターの연구원の方から、自然環境を作り上げている要素とは何か、お互いがどのように関わり繋がっているかを伝えるために、どのようなツールが効果的なのかなどの手法を学んだ。習得したツール制作の手法を応用し、2種類のハンドブックを制作した。それぞれ十数回の添削と修正を繰り返し、小学校低学年向けに特徴と見分け方を分かりやすく掲載した。

## <結果>

セミハンドブック「このセミなあと」は200部を設置し9月の約1ヶ月間で配布を完了し、コロナ禍において密にならず間接的なインタープリテーションが可能となったと、非常に高い評価を得られた。その結果、どんぐりハンドブック「このどんぐりなあと」の作成依頼を受け、引き続き制作を進め12月に200部を設置した。「セミ」のガイドブックでは、夏休みの自由研究に活用したい、など多くの嬉しい感想も寄せられたが、画質が粗く見にくい、実物大のサイズにしてほしい、セミのいる場所をMAPで表してほしい、という意見も頂いた。この貴重な意見を反映させ「どんぐり」のハンドブックを制作した。

## <展望>

今回の「セミ」と「どんぐり」のガイドブックをきっかけに、人間だけではなく、動物、植物、昆虫など、様々な「生きもの」が、お互いにつながっていること、地球に豊かな生態系をもたらしていることを伝えたいと考える。  
全国各地のフィールドで自然の価値を高めるためのツールを考案し、環境問題の解決に貢献したいと考える。

## <協力>

公益財団法人 東京都公園協会  
株式会社生態計画研究所 NPO 法人生態教育センター  
千年の森自然学校

